

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	213	3年	前期	看護学科	必修	終末期・緩和ケア方法論 Terminal/Palliative Care Methods	15	1
担当教員								
松井 美由紀	光井 綾子			上杉 和美*				
関連するDPキーワード（看護学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
<input type="radio"/>	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
成人期における終末期・緩和ケアを理解するために、終末期・緩和ケア・ホスピスケアに関する基礎的知識や援助方法、人生の最期を迎える人とそれを看取る家族へのケアについて、実際の事例等を通して理解することができる。また、終末期ケアおよび緩和ケアにおける倫理的課題について、講義や意見交換を通して考え、理解を深めることができる。								
到達目標（授業目標）								
①終末期・緩和ケア・ホスピスケアの定義、理念、歴史、制度について説明できる。								
②緩和ケアおよび終末期にある人の総合的・全人的理解とその人らしさを支える援助方法を説明できる。								
③緩和ケアにおける疼痛管理、症状マネージメントの方法について説明できる。								
④終末期にある人の家族および遺族の心の変化や生活への影響を踏まえた援助方法を説明できる。								
⑤終末期ケアおよび緩和ケアにおける倫理的課題について、自身の考えを表現し意見交換できる。								
授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
回								
1回	終末期・緩和ケアの概念と制度：終末期、緩和ケア、ホスピス、エンドオブライフの定義と歴史、制度、理念などを講義する。（松井美由紀）							
2回	終末期にある人の身体的特徴と援助方法：終末期患者における症状マネージメント（疼痛管理）を講義する。（上杉和美）							
3回	終末期にある人の身体的特徴と援助方法：終末期患者における症状マネージメント（疼痛以外）を講義する。（上杉和美）							

4回	終末期にある人の心理・社会的・霊的特徴と援助方法：死にゆく人の心理過程、ギアチェンジ時の支援などを講義する。（上杉和美）
5回	終末期にある人の家族および遺族の理解と援助：臨終を迎えるまでに家族がたどる心理過程と喪失後のグリーフケアを講義する。（光井綾子）
6回	終末期ケア、緩和ケアにおける倫理的課題と看護の役割：終末期ケア、緩和ケアにおいて直面する倫理的課題と看護職に期待される役割についてグループ討議し、発表する。（光井綾子）
7回	一般病院における緩和ケア：一般病棟における緩和ケアチームの活動の実際と課題を講義する。（教育協力者：愛媛県立中央病院がん看護専門看護師）
8回	終末期に関わる医療従事者のストレスおよびストレスマネジメント&終末期・緩和ケアのまとめ：医療従事者のストレスの実態と対策を講義し、これまでの学習内容をまとめ振り返る。（松井美由紀）
9回	
10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

各授業後の授業に対する学びの記述内容から学習内容の理解を評価する（リアクションペーパー：20％）。倫理的課題についての個人課題への取り組みに対する評価をする（20％）。定期試験では、各授業の重要なポイントの知識修得を評価する（60％）。トータル60点以上を合格とする。

教科書	鈴木志津枝・内布敦子「緩和・ターミナルケア看護論 第2版」（ヌーヴェルヒロカワ）
-----	--

参考図書等	
-------	--

授業時間外の学習について（授業準備のための指示）

臨床病態学や薬理学の予習をしておくとう理解しやすい。

関連科目

前科目	156	臨床病態学Ⅰ(共)	161	薬と健康(共通)	210	成人看護対象論	227	メンタルヘルス論	232	家族看護論
後科目	215	成人看護学慢性期実	241	看護アセスメントⅡ	242	看護アセスメントⅢ	249	総合実習		

実務家教員

看護師（医療機関）	松井 美由紀	光井 綾子	上杉 和美*				

備考

非常勤講師等の都合にて授業の順序や内容については、変更する可能性がある。